

お互いに顔が見える、最期まで安心のゆるやかなセーフティネット

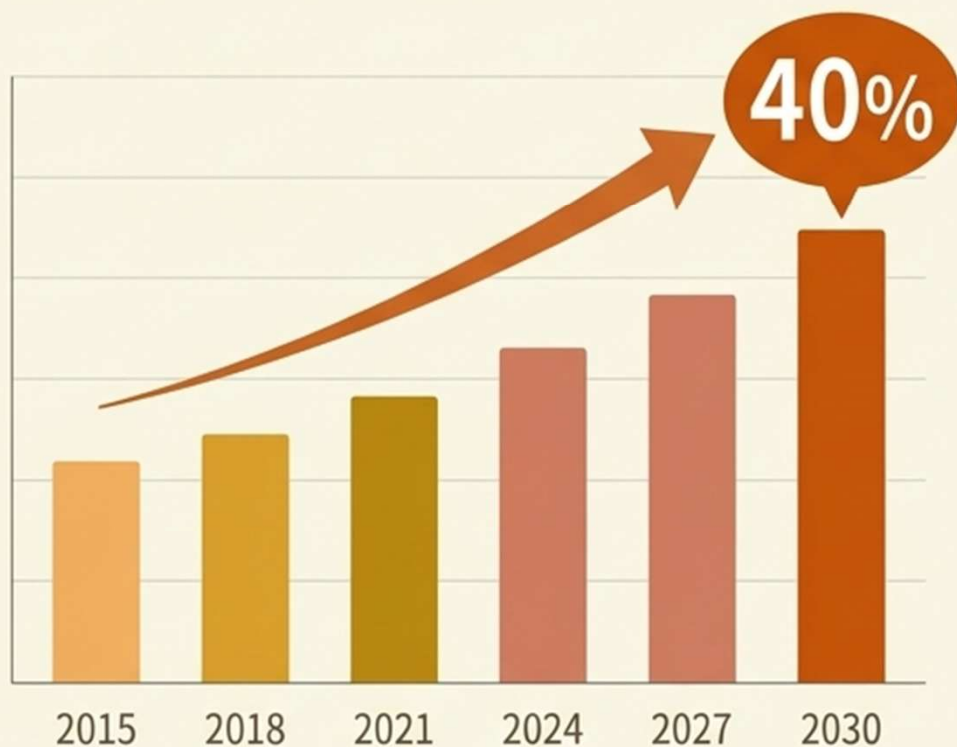
NPOを活用した「おたがいさま」の包括支援モデル

「家族みまん」



2030年、東京都の高齢者世帯の4割が「おひとりさま」に

血縁家族に依存する時代は終わりを告げようとしています。都内の65歳以上の単身世帯は急増しており、「身元保証」や「死後の不安」は、一部の人だけでなく、明日の私たちの切実な社会課題となっています。



東京都 高齢者単身世帯の割合推移（推計）



急速に増える独居シニア、認知症のリスクも。

「おひとりさま」が直面する4つの深刻な壁



現状の公的支援や血縁家族だけでは、この4つをシームレスに乗り越えることはできません。

解決するための“ゆるいつながり”の見える化



ほぼ三親等のような
ゆるいつながり

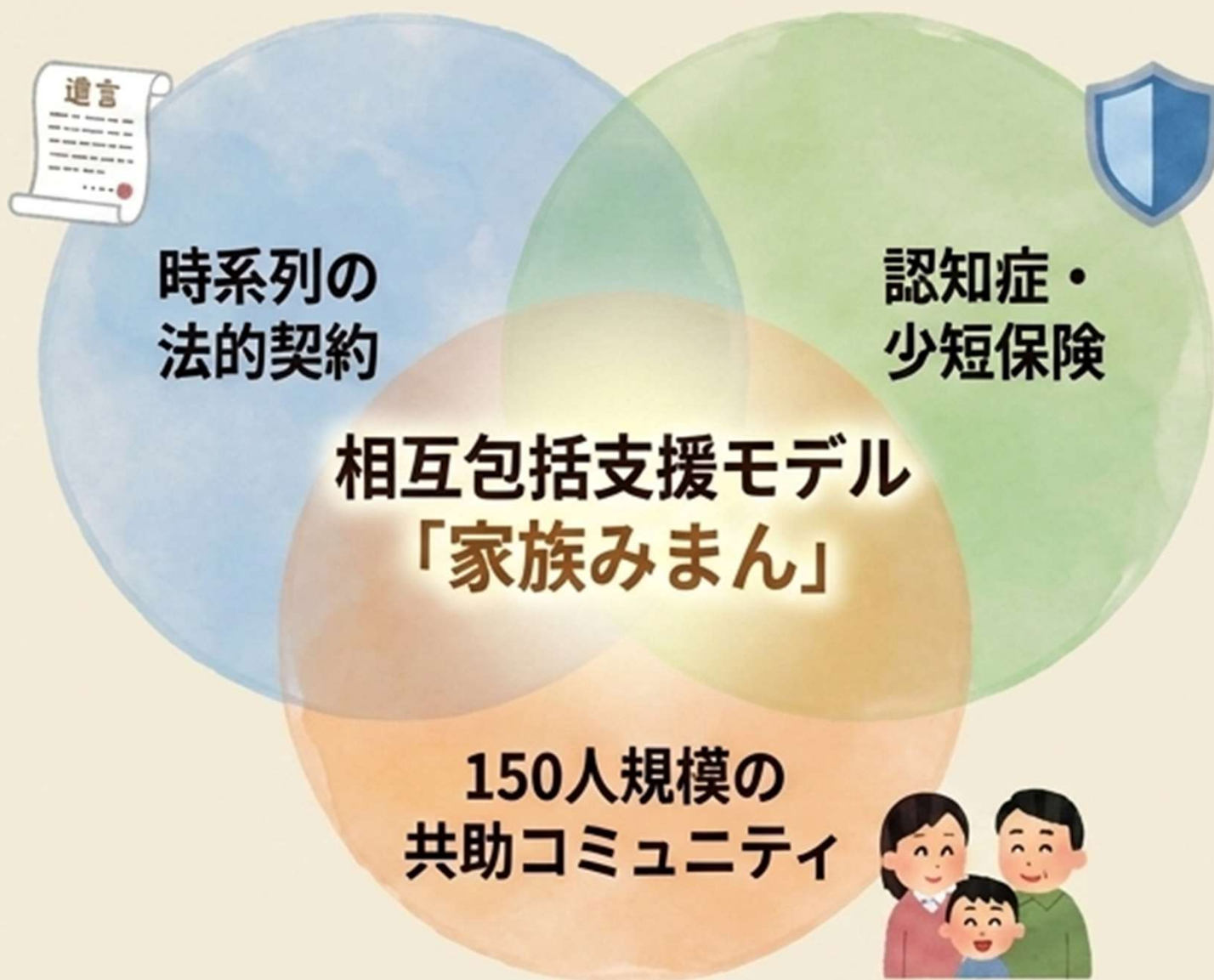
NPOコラルトとして「認知症サポーター養成講座（認サポ）」を継続開催する中で、専門家のみなさまとのご縁によって、さまざまな「学び」や「気づき」を頂くことができました。その中で、任意後見契約について、法人でも受任可能なことに気づきました。

「家族みまん」とは・・・

婚姻や養子縁組ではない「**友達以上、家族未満**」のような“ゆるいカタチ”でのほぼ三親等の**ゆるいつながり**の必要性を感じていた、NPOコラルトの発起人のたいこんが、NPOをコアとした包括的支援モデルを“契約”という「カタチとして“見える化”」しようとする試みです。

「“まんなか”にNPOがある」からこそできること

法的契約に「血の通ったコミュニティ」を掛け合わせる



単なる契約パッケージではありません。

「お互いに顔が見える」といわれるダンパー数（約150人）に基づく、“おたがいさまのコミュニティ”を基盤とし、法的な担保と日々の温かいつながりを両立させます。

将来への不安をなくすことで、健康寿命のうちに自分のための「コト消費（経験）」としてお金を使い切る（Die with Zero）豊かなシニアライフを実現します。

「たすけあう権利」を担保

自分にとって大切な人が「まさかの状態に陥ったとき」、あなたは何ができるでしょうか。その逆に「自分が万が一のとき」誰に頼りたいですか？

コンプライアンス意識が強化されつつある昨今では、大切な人が緊急入院をしても血縁者以外には状況の説明をしてくれません。不動産の手続きなどでも同様のことが発生します。

常に生活を共にしていなくても、なんとなく身近に存在している・・・そして、イザというときにはお互いに助け合うことができる・・・私たちNP0コラルトのコミュニティでは、そんな「ゆるいつながりのカタチ」を社会の中でも認めてもらうようにすべく、模索していきます。

さながら行きつけの飲み屋の常連さん同士が「たすけあう権利（と義務）」をもったような関係性・・・それを実効化するために、NP0をコア（受託者）とした、時系列的な5つの契約を提案します。



ライフステージに伴走する「5つの契約」

身体機能や判断能力の低下から死後手続きまで、状態の変化に応じて1つずつ有効になるシームレスな法的セーフティネット。



1. 任意後見に関しては財産を管理する権限を有しますが、財産を能動的に運用する権限はありません。そのため、必要に応じて「家族信託」の制度を準用します。
2. 遺言状の発効は死後となりますが、その作成は生前に判断能力のある段階となります。また、遺言状の内容はライフスタイルの変化により随時見直すことが薦められています。

コラルトだからできる安心の組み合わせ

安心を支える3つの独自スキーム



時系列契約の伴走

NPO法人がコア（受託者）となり、提携士業（司法書士・行政書士）と連携。見守りから死後事務までワンストップで包括支援を提供。



保険活用による自立担保

NPOとして認知症保険・少短保険（死亡保険）に団体加入。万が一の際の死後事務代行費用や葬儀代を確実に金銭担保し、自立した制度を構築。



「ありがとう」の見える化

日常のゆるやかな助け合いにおける心理的ハードルを下げられるため、地域通貨を導入。困窮時は生活保護申請の伴走支援も完備。

ベースとなるのは“おたがいさま”のコミュニティ

ターゲットはつながりに「カタチ」を求める層



頼れる身内がない単身高齢者。家族が遠方で頼れない60代以上のアクティブ層。



「子どもがない」「多様なパートナーシップを持つ」など、従来の血縁家族のサポートが期待しにくい層。



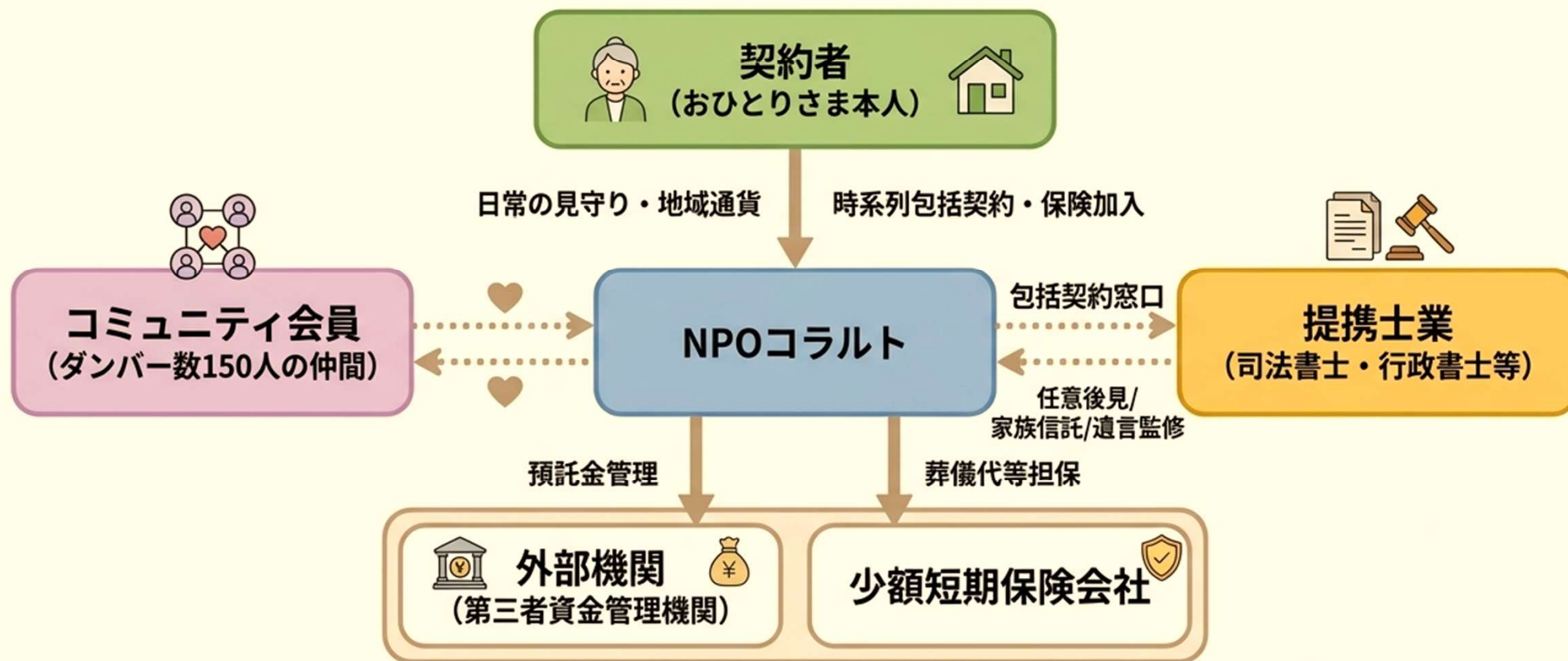
「生きているうちに自分のお金を使い切りたい」が、認知症や死後手続きへの強い不安を抱える自立意識の高い層。

将来の認知症発症、入院・施設入所時の身元保証、死後の遺品整理や葬儀に対して強い不安を感じており、信頼できるコミュニティとセーフティネットを求めている人々。

イザというときに一番頼りになるのは「身近にいる人」です。まずは地域に根差した比較的小規模の「おたがいさまのコミュニティ」を通じて、相互に助け合うことを前提としています。コミュニティの主旨に賛同いただけるのであれば、シニアに限らず、老若男女どなたでも、社会的な属性は問いません。（ただし、参画時点では自立した生活を営んでいることを条件とします。）

「餅は餅屋」のシンプルな循環型スキーム

ビジネスモデル：持続可能な循環・連携スキーム



NPOが参加者の状況を把握し、メンバー間の交流（たすけあいの輪）を促進。各種契約の窓口としての契約事務や将来的な地域通貨運用なども行い、専門的な書面作成・監修は士業へ委託。預託金管理と死後費用担保は第三者的な外部機関・保険を活用し、透明性と安全性を徹底していきます。

ココが違う、コラルトの「家族みまん」

競合優位性：点ではなく「線と面」で支える

比較項目	家族みまん (本事業)	営利系 身元保証会社	大手NPO・社協	個人の士業 (弁護士等)
時系列の法的網羅性	◎ (シームレス移行)	○	△ (公的枠組み限定)	◎
日常の繋がり・ 共助コミュニティ	◎ (150人規模・地域通貨)	×	△	×
費用負担の適正さ・ 金銭担保	◎ (少短保険活用)	×	○	△

既存サービスは「法的手続きの代行」か「公的支援」の枠にとどまります。
本モデルは、ゆるやかなつながりをベースとしたコミュニティ内での日常の共助と、
時系列の確実な法的・金銭的担保を融合させた唯一のパッケージです。

NPO法人ならではのリスク管理

事業リスクの排除と徹底した透明性の確保



資金管理・履行リスク
(枯渇や流用)



預託金は「第三者機関」へ委託し厳格管理。死後事務費用はNPOで団体加入する「少額短期保険（死亡保険）」等で確実に担保し、資金ショートを防ぎます。



法的トラブル・
契約体系の誤用



提携弁護士・司法書士が「見守り～遺言」に至る各書面を個別に監修し、責任範囲を厳格化します。

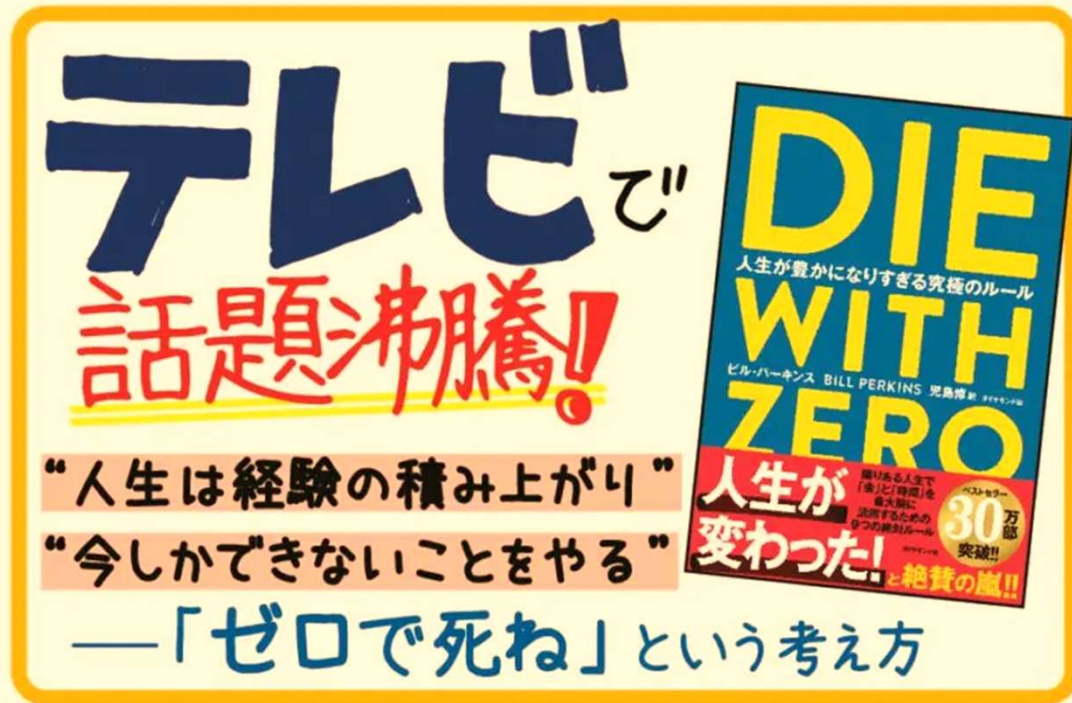


受託者の
困窮リスク



万が一の際は福祉事務所や社会福祉協議会と連携し、最終セーフティネット（生活保護受給）への伴走申請ルートを組み込みます。

安心できたら人生を愉しもう



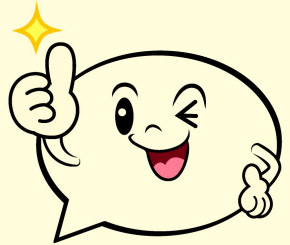
ライフサイクルに応じた委任契約で基本的な安心を確保出来たら、健康寿命のうちに自分のためにお金を遣い倒すことも考えてみましょう。（コト消費／イミ消費）

人間である以上、必ず人生をCLOSEする時が来ます。そんなときに”あちら”に持っていけるのは「経験」という財産だけです。

みんなが安心して自分のため（＝人のため）にお金を遣い始めれば、経済が回ります。（お金の基本は水と同じで「循環させること」です。）

フィジカルAIとロボット技術、量子コンピューターの進化によって、従来は美德とされていた「労働」に対する価値観が変わりつつあります。

最新のテクノロジーを活用して、「中今（なかいま）」としての充実した暮らしを満喫することが、これからのひとつの選択肢になることでしょう。

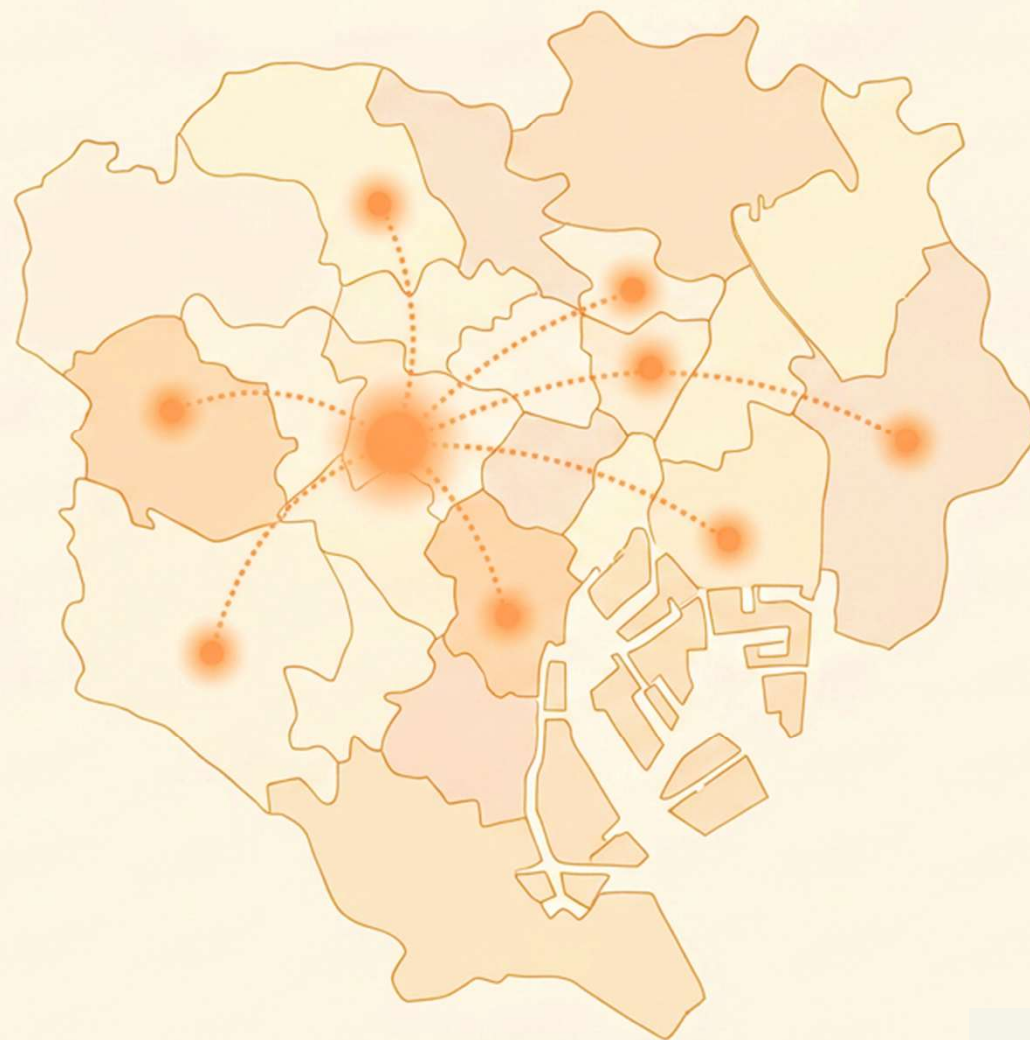


アリキリから学べること

新宿から東京全域へ。「持続可能な東京型シニアライフモデル」

本事業は単なる身元保証を超えた「ゆるやかな共助コミュニティ」の創出です。まずは新宿でダンバー数（150人）規模の地域小規模コミュニティ（C2C）モデルを確立します。

その後、標準運用マニュアルを作成し、コミュニティリーダー向け講習パッケージを整備。他地域への運営ノウハウ提供（C2C展開）を通じて、公助・共助・地域経済が連動する社会インフラを東京から発信します。



新宿から東京全域へ、さらには全国へ！

4つの前提条件

①対象は実生活での関係性をベースに「経済的に自立」している人

パートナーとして付き合っている実態がある、同居している、カギを預けあっているなど、すでに実生活をベースとした関係性があり、イザというときにお互いに助け合う必要性を感じている仲間がいる人たちが対象。経済的な自立には、パートナーによる扶養的なものや生活保護なども含まれる。（NO FREE LUNCHということ）

②地域に根差したコミュニティ

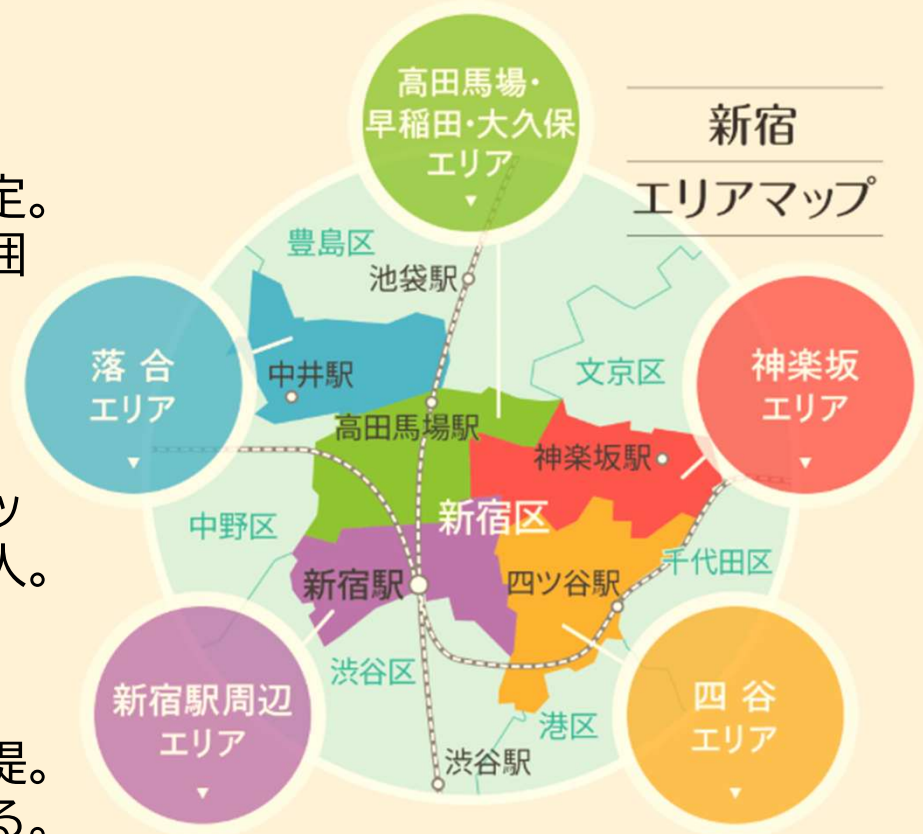
コミュニティのMAX規模は150人程度（ダンパー数）を想定。お互いに顔が見える＆手足を使った助け合いが可能な範囲で動くことができる人。（当初は新宿エリアで展開）

③マイノリティを包摂するコミュニティ

おひとりさま、シングルマザー、依存症、ハンディキャップ、LGBTなど、多様性を排除しない価値観を持っている人。

④基本は「心が喜ぶ」こと（だけ）をする

精神的、体力的、経済的な無理は絶対にしないことが前提。解決が難しいことや専門的な日常サポートはプロに任せる。



多様性のまち「しんじゅく」

発起人「たいこん」のご紹介



🔍 シェアハウス 山田泰輔 🔍



ビジネス基盤

早稲田大学大学院ファイナンス研究科にてMBA取得。
上場企業や外資系での人事労務・バックオフィス業務
の豊富な実務経験。



地域密着の福祉活動

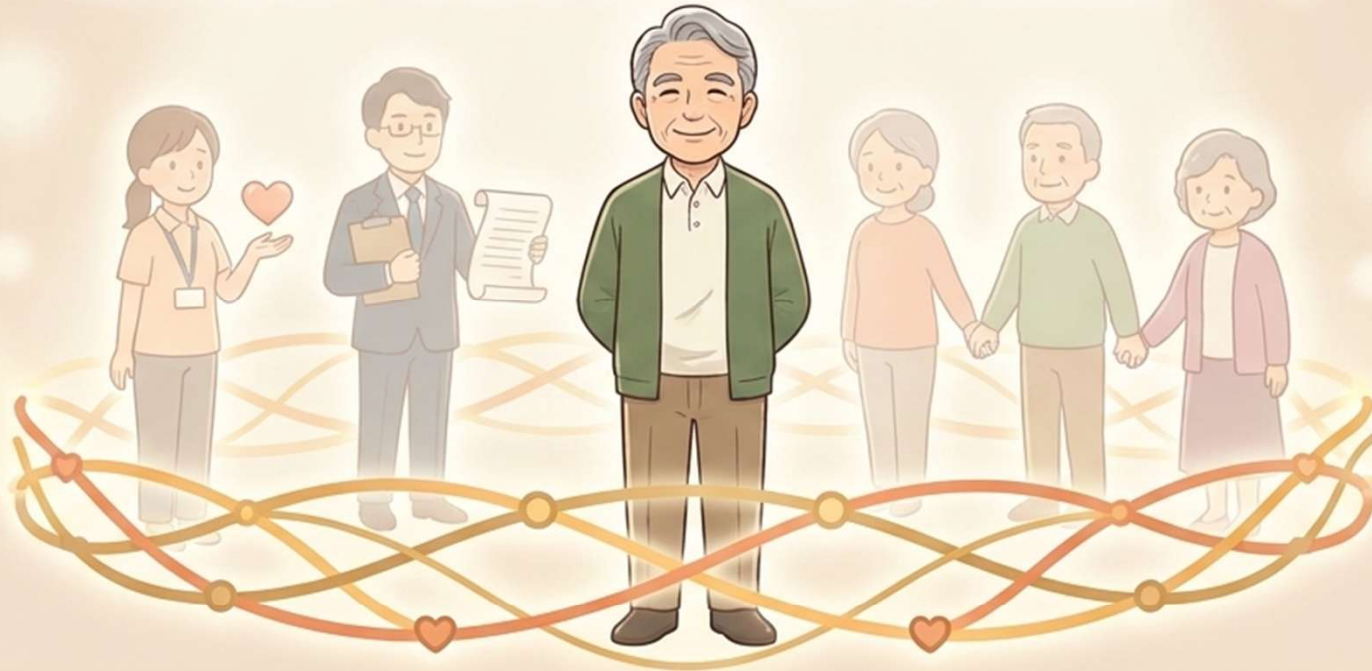
2024年4月から新宿区高齢者支援課と連携し、新宿2丁
目にて月一回の「認知症サポーター養成講座（認サポ）」
を継続開催。



独自のネットワーク構築力

司法書士・行政書士等の士業専門家や、地元介護関連従
事者と連携し、支援現場と専門職をつなぐ「ハブ」とし
ての調整能力を発揮。

家族がいなくても、一人じゃない。 最期まで安心できる社会へ。



「家族みまん」は、高齢者が抱え込みがちな資産を健康なうちに消費や体験に回せる環境を整え、人生のクロージングまで寄り添い続けます。持続可能なシニアライフモデルの実現に向けて、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

NPO法人コラルト / 山田 泰輔 (taicon@colalt.com)

参加するもしないも、さらには参加してから利用するもしないもアナタ次第。
自分らしく人生をクローズするための、ひとつの「お守り代わり」の選択肢としてご検討ください。



循環型コミュニティへ

多様性を包摂する、持続可能な相互扶助の循環

地域コミュニティ →

世代間を含めたタテのつながり

快適な相互関係醸成

↓
助ける人 = 助けられる人

↓
ヨコのつながり

面のつながり

↓
世代を超えたつながり

↓
助け合いの循環



地域に根差した相互扶助の試行錯誤を新宿エリアから・・・
NPOをコアとした小規模コミュニティ同士の全国ネット化
自律分散的な相互のつながりは・・・世界へ波及

